

目指せ 6-2弘明寺大使 心と心の懸け橋に！

今年の大岡の時間に何をしたいかを話し合うと、子どもたちからは、「6年間お世話になったまちの人や商店街の人たちへの感謝や恩返しをしたい！」という地域愛についての話題が集中しました。商店街やまちについて話し合いを進めると意外に自分たちが商店街に行く機会が少ないことや知っていることが少ないことに気付きました。

そこでもう一度商店街や自分たちのまちを見つめ直すために実際に歩いてみるとまだ知らない場所や、目にはしていたが実際に何をしている場所なのかわからなかった留学生会館の存在に気付きました。でも今までに関わりがないことや言葉の壁もあると悩みました。そのうち、私たちにしかできないことはないかと考えはじめました。2020年のオリンピックの話やマンガ・アニメの話をしていると、うまく活用して自分たちが商店街と留学生会館の懸け橋になれないかという話になり盛り上がり、大きな夢を膨らませてスタートしました。



2つの懸け橋になる為のポイントが言葉の壁です。6900語ある言葉よりもアニメーションの方がより多くの人に自分たちのメッセージを伝えることができるのではと考えました。

仮説を検証する為に交流会を開催し自分たちの提案が有効であると考えました。言葉の壁を壊すというよりは、壁をどのようにして乗り越えるかを考えはじめた子どもたち。商店街への感謝・恩返し、そして2つの懸け橋になる為にアニメーションを制作すれば壁を乗り越え心と心の懸け橋になれるのではないかと考えました。弘明寺大使として留学生・商店街の人たちと交流して自分たちのオリジナルのアニメーションを広めていこうということになりました。

